

V 事業化の検討

1. 利用者数の検討

(1) (仮称) 北市川運動公園の利用者数の検討

1) テニスコート利用者数の検討

テニスコートは、市川市スポーツセンターの機能移転と円滑な大会運営可能な整備を基本として
いるため、現在のテニスコート利用者数を基礎数として検討を行う。

表V-1：テニスコート利用者数

	国府台テニスコート	福栄スポーツ広場 テニスコート	塩浜市民体育館 テニスコート
平成 21 年度	54,762	43,355	2,824
平成 22 年度	44,378	43,047	2,840
平成 23 年度	47,585	39,692	2,902
平成 24 年度	46,339	39,967	4,433
平成 25 年度	46,572	45,644	4,188
平均	47,927	42,341	3,437

○施設規模

- ・国府台テニスコート：9面（ハードコート：3面・クレイコート：3面・砂入り人工芝コート：3面）
- ・福栄スポーツ広場テニスコート：7面（砂入り人工芝コート）
- ・塩浜市民体育館テニスコート：1面（砂入り人工芝コート）

【考 察】

- 1面あたりの一般利用は、塩浜市民体育館テニスコートで約3,400人である
- テニス大会が1箇所で開催するものとして、そのときの大会参加者数は、約56,600人となり、新たな中学生大会を加えると、57,000人程度の利用と推測される（大会利用者数を塩浜市民体育館テニスコートの一般利用者数から推測）
 - ・国府台テニスコート：47,927人－3,437人/面×9面＝16,994人
 - ・福栄スポーツ広場：42,341人－3,437人/面×7面＝18,282人
 - ・合計：16,994人＋18,282人＝35,276人
- 大会時の観戦者は、大会参加者の約4割程度と設定すると、14,110人程度となる
 - ・観戦者：35,276人×40%＝14,110人
- 大会時の参加者、観戦者、一般利用者の合計は、おおよそ121,000人となる
 - ・大会参加者：35,276人・観戦者：14,110人・一般利用者：3,437人/面×12面＝41,244人
 - 合計：90,630人
- これらを基に、スポーツ活動の活性化を図るものとし、2割程度の利用向上を目指す

- 現状の利用者数を基にすると、約90,600人の利用が見込める
- 今後のスポーツの発展と活動の活性化を目指し、年間のテニスコートエリアの利用者数を110,000人と設定する

2) 園地における利用者数の検討

芝生広場等の園地における利用者数の検討にあたっては、(一財*) 公園緑地管理財団の実施している都市公園の利用実態調査を基に行うものとする。

①都市公園利用実態調査

(一財) 公園緑地管理財団は、昭和 41 年から 5~6 年ごとに都市公園利用実態調査を行い、都市公園の利用実態を利用者数調査及びアンケート調査により把握している。近年は平成 19 年度に行われ、都市公園 271 箇所を対象にしており、本構想では、この平成 19 年度のデータを基に需要予測の基礎数値として採用する。

対象地全体の面積は、3.4ha で、近隣公園と同等の面積規模となる。

表 V-2：都市公園利用実態調査（平成 19 年度総括表）

		街区	近隣	地区	運動	総合	広域	国営
平均利用可能面積	ha/ヶ所	0.286	1.392	3.474	19.924	19.449	45.181	77.084
平均入園者数	休日 人	218	722	1480	4,882	3,404	4,964	9,780
	平日 人	224	609	1,068	2,639	2,316	2,382	2,898
ha あたり入園者数	休日 人/ha	761	519	426	245	175	110	127
	平日 人/ha	782	438	308	132	119	53	38
平均在園時間	休日 時間	1.01	0.72	1.03	2.07	1.41	1.89	2.64
	平日 時間	0.53	0.59	0.75	1.15	0.89	1.67	1.96
最大時在園者数	休日 人/ha	87	45	53	68	34	31	59
	平日 人/ha	54	33	25	16	14	13	12
平均到達時間	分	12.3	15.5	20.2	26.5	28.5	39.7	61.0
80%到達時間	分	14.9	22.4	28.1	42.6	43.6	63.9	103.0
平均来園頻度	回/月	10.3	9.7	8.9	6.4	5.8	4.4	0.9
リピーター率	%	92.9	93.6	90.8	93.5	91.0	87.4	68.6
平均誘致圏人口	人	2,998	6,757	20,122	—	—	—	—
平均誘致圏老年人口	人	624	1,497	4,427	—	—	—	—
公園利用率	休日 %	7.5	10.7	—	—	—	—	—
	平日 %	7.5	9.4	—	—	—	—	—
老年公園利用率	休日 %	4.8	8.1	—	—	—	—	—
	平日 %	5.5	8.3	—	—	—	—	—
徒歩・自転車利用率	%	78.5	69.8	57.9	37.8	36.5	21.0	8.8
自転車利用率	%	20.9	22.0	16.7	14.5	12.8	8.7	5.3
自家用車利用率	%	15.8	21.6	34.6	50.3	50.6	70.2	61.3
貸切りバス利用率	%	0	0.5	0.4	1.2	1.0	1.1	6.1

○調査における休日及び平日の区分

- ・休日：平成 19 年 10 月 6 日～10 月 28 日の休日（10 月 7, 8, 14, 21, 28 日のいずれか）
- ・平日：平成 19 年 10 月 6 日～10 月 28 日の月曜日と土曜日を除く平日

※なお、上記の在園者数検討においては、休日は日曜日、平日は月曜日から土曜日と設定

②日入園者数、最大時在園者数

「都市公園利用実態調査」によれば、「近隣公園」の利用可能面積に対し、次のような来園傾向が報告されている。

- ・入園者数は 休日 519 人/ha、平日 438 人/ha
- ・最大時在園者数は 休日 45 人/ha、平日 33 人/ha

このデータから本対象地の需要を推計する。本対象地は 3.4ha であるが、約 1ha がテニスコートとなっており、公園としての利用可能面積はテニスコートを除いた約 2.4ha で検討を行う。

- ・入園者数は、 休日：519×2.4ha → 1,246 人
平日：438×2.4ha → 1,051 人
- ・最大時在園者数は、 休日：45×2.4ha → 108 人
平日：33×2.4ha → 79 人
- ・平均 1 日あたりの入園者数は、平均：(1,246×1 日+1,051×6 日) ÷ 7 日 → 1,079 人
- ・平均滞在時間は、 休日：0.72 時間 → 43 分
平日：0.59 時間 → 35 分
- ・年間入園者数は、 1,079×9.7 回/月×12 ヶ月 → 125,596 人

- 休日：約 1,250 人、平日：約 1,050 人の利用を想定する
- 年間：約 125,600 人の利用を想定する

～都市公園～

都市公園には、大きくは「住区基幹公園」や「都市基幹公園」、「大規模公園」、「国営公園」、「緩衝緑地等」に分類される。その分類の中で、都市における身近なものとして以下の公園などがある。

表 V-3：主な都市公園

住区基幹公園	街区公園	もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離 250m の範囲内で 1 箇所当たり面積 0.25ha を標準として配置	都市基幹公園	総合公園	都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ 1 箇所当たり面積 10～50ha を標準として配置する
	近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で近隣住区当たり 1 箇所を誘致距離 500m の範囲内で 1 箇所当たり面積 2ha を標準として配置		運動公園	都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ 1 箇所当たり面積 15～75ha を標準として配置
	地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離 1km の範囲内で 1 箇所当たり面積 4ha を標準として配置する。都市計画区域外の一定の町村における特定地区公園（カントリーパーク）は、面積 4ha 以上を標準とする		緩衝緑地等	特殊公園
			都市緑地		主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地であり、1 箇所あたり面積 0.1ha 以上を標準として配置
			緑道		災害時における避難路の確保、都市生活の安全性及び快適性の確保等を図ることを目的として、近隣住区又は近隣住区相互を連絡するように設けられる植樹帯及び歩行者路又は自転車路を主体とする緑地

(2) (仮称) 市川スポーツアリーナの利用者数の検討

1) スポーツアリーナ利用者数の検討

スポーツアリーナの利用者数検討の参考として、隣接自治体である浦安市の総合体育館・室内水泳プール（体育館と併設）と自治体全体の人口規模は大きいものの施設規模が同等な大阪府東大阪市の東大阪アリーナの利用者数を整理する。

表 V-4：浦安市総合体育館・室内水泳プール利用者数

	総合体育館	室内水泳プール	合計
平成 22 年度	302, 664	173, 686	476, 350
平成 23 年度	245, 377	133, 746	379, 123
平成 24 年度	299, 235	144, 453	443, 688
平成 25 年度	310, 808	153, 714	464, 522

資料：(公財) 浦安市施設利用振興協会

○総合体育館施設規模

- ・メインアリーナ：49×37m (1813 m²)・固定観客席 1010 席
- ・サブアリーナ：36×24m (840 m²)
- ・第一武道場：17×18m (306 m²・171 畳・柔道場)
- ・第二武道場：17×18m (306 m²・剣道場)
- ・弓道場
- ・研修室
- ・トレーニング室

○室内水泳プール施設規模

- ・25mプール
- ・多目的プール
- ・健康プール
- ・リハビリプール
- ・屋外プール

表 V-5 : 東大阪アリーナ利用者数

	アリーナ (大・小)	武道場	研修室	屋内プール	フィットネス	合 計
平成 21 年度	309,570	27,138	16,817	109,896	15,581	479,002
平成 22 年度	357,253	28,984	19,789	96,307	18,093	520,426
平成 23 年度	372,842	30,452	23,638	134,056	20,283	581,271
平成 24 年度	457,633	29,782	24,059	111,842	23,700	647,016

資料：東大阪市資料：社会教育部青少年スポーツ室

○総合体育館施設規模

- ・大アリーナ：2160 m²・観覧席 1400 席
- ・小アリーナ：324 m²
- ・武道場：324 m²（柔道・剣道各：1 面）
- ・トレーニングルーム：306 m²
- ・研修室：252 m²（3 分割可）

○室内プール施設規模

- ・50m×8 コース・観覧席 456 席

【考 察】

- メインのアリーナ規模と人口規模（浦安市：約 16.3 万人、東大阪市：50.4 万人）が異なるため、アリーナ、武道場、フィットネスをあわせた体育館利用者数は、浦安市では 30 万人前後であるが、東大阪市では 45～54 万人とかなりの開きがある
- 多様なプールがある浦安市のプール施設では、利用者数はやや高くなっているが、本計画と同程度のプール施設を持つ東大阪市でも近年では 11～13 万人の利用者数がある
- 市川市の人口は 47.2 万人で、東大阪市より 3.2 万人ほど少ないものの、施設規模が同等な点を考慮すれば、ほぼ同程度の利用者数があると考えられる

- 体育館施設では、年間利用者数を 50 万人程度と設定する
- プール施設では、年間利用者数を 12 万人程度と設定する
- 年間の総利用者数を 62 万人程度と設定する

2) 少年サッカー場・少年ラグビー場利用者数の検討

現況においては、週末は少年ラグビークラブの練習や練習試合、平日は地域住民のグラウンドゴルフ場として利用されている。

市川市では、北東部を除きサッカー場が3箇所、4面が整備されている。現在、少年サッカーの大会は、主に小学校の校庭等を利用し開催されている。小学校は、地域に密着しており、アクセス性も良いため、大会等は今後も小学校を主体として開催されると思われる。

従って、本対象地では、地域の少年ラグビークラブの活動の場所としての利用が主となると判断する。現在利用している少年ラグビークラブは1クラブで、約100名のメンバーとなっている。

本年1月から6月までは平均およそ月5回ほどの練習が、本対象地で利用されており、コンディションのよいグラウンドに整備されれば、より一層の利用があるものと考えられる。

- 少年ラグビーの練習利用として、クラブ員・コーチを含め1回120人、月6回の利用があるとして、練習試合も含め年間10,000人程度の利用を想定する
- また、グラウンドゴルフは、週2回、20~30人ほどの参加として、年間で2,000人ほどの利用を想定する

～スポーツローズアップ～

■グラウンドゴルフ

昭和57年に鳥取県東伯郡泊村生涯スポーツ活動推進事業の一環として、泊村教育委員会が中心になり考案された。

高度な技術を必要とせず、全力を出す場面と、集中力や調整力を発揮する場面がうまく組み合わせられており、ルールもごく簡単なことから、初心者でもすぐに取り組み、人気が高い。

専用のクラブ、ボール、ホールポスト、スタートマットを使用して、ゴルフのようにボールをクラブで打ち、ホールポストにホールインするまでの打数を競う。

標準コースは、50m、30m、25m、15m 各2ホールの合計8ホールで構成するが、場所によって距離やホールポストの数を自由に設定できる。



*38

2. 維持管理費、概算事業費の算出

(1) 維持管理費の算出

1) (仮称) 北市川運動公園の維持管理費

年間概算維持管理費 約 1,500 万円

2) (仮称) 市川スポーツアリーナの維持管理費

年間概算維持管理費 約 4,400 万円

3) 特記事項

- ・水道料金については、水道局との調整が必要である。
- ・テニスコートの場合、一般的には、竣工後 7～8 年でサーフェスの部分張替え、竣工後 15 年程度で全面張替えが必要になる。
- ・事務費や人件費等は除く。

(2) 概算事業費の算出

1) (仮称) 北市川運動公園の概算事業費

概算工事費 約 13 億円

2) (仮称) 市川スポーツアリーナの概算事業費

概算工事費 約 41 億円

3) 特記事項

- ・アクセス道路や雨水流出抑制のための施設整備など、関係機関との調整が必要である。
- ・財源については、国庫補助金や地方債等の積極的な活用を図っていく。

3. 事業化に向けた課題

スポーツタウン構想の事業化にあたっては、用地の取得や整備内容の確定、整備費の財源確保など施設整備に向けた課題と質の高い指導者の確保、利用者拡大に対する効果的な広報活動等、運営面における課題など、多岐にわたる。

■整備に向けた課題

- 自然環境の保全と活用、人と自然とのふれあい等、市川市の環境施策に基づいた施設・環境整備の推進
- 市川市宅地開発事業に係る手続及び基準等に関する条例に基づいた計画内容の精査（特に雨水流出抑制機能及び雨水調整施設）
- アクセス道路を含めた十分な整備用地の確保
- 整備内容及び整備水準の確定と事業費の財源確保
- 円滑で効率的な管理運営を可能にする必要施設等の整理
- 基本設計・実施設計における整備内容等の精査
- 工事工程、施工計画の検討

■運営に向けた課題

- 総合型地域スポーツクラブの育成
- 質の高い指導者・クラブマネージャー*の育成・確保
- 地域住民のニーズを踏まえた魅力あるプログラムの提供
- 民間法人等を活用した運営や施設利用者の増加
- 「観る」スポーツ、「支える」スポーツの育成
- スポーツクラブと市川市・学校・体育協会・各種団体との有機的な連携構築
- 様々な情報発信力の強化

北東部のスポーツタウンを実現していくためには、2つのスポーツ拠点が必要な役割を果たす。スポーツ活動が制約を受けるような状況においては、地域スポーツの発展は見込めず、地域の個性と地域を誇る文化としてのスポーツにまで昇華させることは困難となる。そのためには、2つのスポーツ拠点の整備が重要となる。

しかし、整備には多額の費用がかかるため、整備内容を精査し、確定させることが重要となる。また、施設の管理運営も重要であり、整備された施設の機能を遺憾なく発揮させるためのプログラムや広報の充実も重要なキーポイントとなる。

また、スポーツを楽しむことができるか否かは、参加者のニーズに応じたスポーツ指導やスポーツの楽しみの提供如何にかかっている。優れた指導者の基には、多くの人が集まり、スポーツを楽しむことが可能となる。

その中心となるのが、総合型地域スポーツクラブであるが、自主的・自立的に運営され、かつ持続的に活動を続けていくためにはクラブ活動に見合った財源を確保する必要があり、自己財源率を高め、有料プログラムやプロスポーツの開催など、魅力的な運営をしていくことが求められる。このためには、市川市や各種団体等の有機的連携が欠かせない。

スポーツ施設は利用されて初めてその価値が発揮できる。そのためには、プログラムの充実や情報発信力の強化とともに、アンケートにあったように「施設のきれいさ」も重要となる。維持管理において、施設をきれいで清潔に保つことが、心地よく利用してもらう条件であり、地域の誇りとなる施設となる。そのための財源確保も大きな課題となる。

「スポーツをする芽」を育てるとともに地域の「スポーツを支える芽」を育てていく必要がある。

このように『施設』と『人（指導者・スポーツクラブ）』と『(地域で) 支える』ことにより、北東部でスポーツタウンが発展し、地域の誇りになると考える。

